



JICAミャンマー国イネ保証種子流通促進プロジェクト “Pure CS” Project Photo Letter

No. 27 January & February 2021



我々の祈りが通じることを・・・

今回は1月と2月の合併号です。

2021年2月1日、ミャンマーは非常事態宣言を行い、国軍によるクーデターが発生しました。これに対し、多くのミャンマー国民が、抗議デモとストライキを展開し、現在も対立と混乱が続いています。現地とネットも繋がりにくくなり、プロジェクト進捗への影響も大きい中、歩みを止められない活動については、現地スタッフの協力を得ながら、細々と続けています。一刻も早く平和的な解決がなされ、元のとおり、C/P、関係者全員と現場で仕事のできる日が来ることを強く願っています。

【ステーキホルダーミーティングの開催（1月）】 10月以降、ミャンマーでは新型コロナ感染第2波への対策として、郡を越えた移動制限、公務員の出勤制限等が課せられており、プロジェクトはオンラインでの普及員への研修実施等を進めてきました。2020年12月にエーヤワディ地域で、年明けの1月にはシュエボー県で、普及員だけでなく民間の精米業者や一般のCS利用農家等と交えて、CS利用を啓発するステーキホルダーミーティングをオンラインで開催しました。



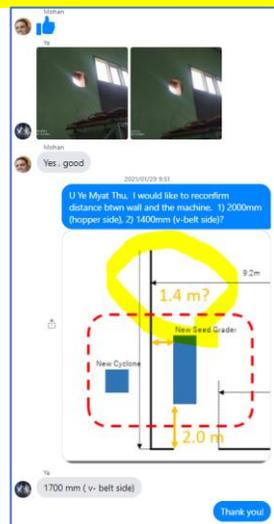
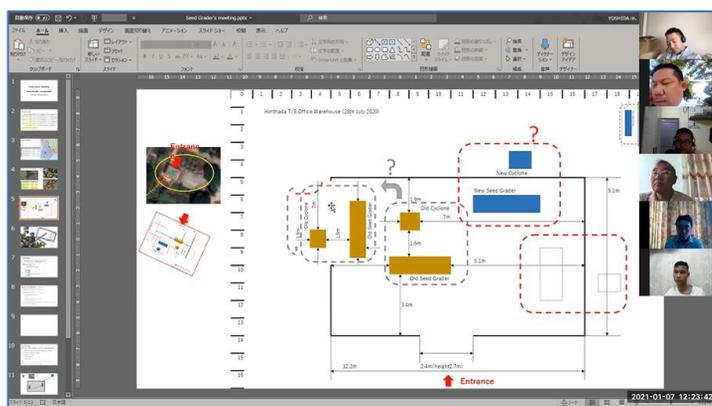
エーヤワディ地域：時間が限られていたため駆け足での進行になりましたが、CSを配布した精米業者やCSを利用した農家からは概ねCSに対して前向きな意見が出ました。（写真 左：精米業者 U Kyaw Win Naing、中央：精米業者 U Shwe Tun、右：CS利用農家 U Kyi Tun



シュエボー県：エーヤワディ地域での反省から、開催時間に少し余裕を持たせました。最後のQ&Aでは、CSを利用して栽培した籾を高値で売るにはどうしたらよいかとの質問があり、精米業者と意見交換が行われました。（写真 左：精米業者 Daw Moe Moe Myint 中央：CS利用農家の U Myint Hanおよび U Chit Kyi、右：籾の販売価格について質問したCS利用農家）

【種子選別機の据付作業にかかる調整とモニタリング（1月）】 据付にかかる位置決め調整会議（写真左）、据付作業のモニタリングをZOOMによるオンラインで日本と繋ぎ実施しました。据付の冒頭には、機械製造元のAgrosaw社エンジニアにZOOM参加してもらい据付の流れと注意点を説明してもらいました。

ZOOMで時間を決めて実施できますが、据付作業は数日間にも及ぶため、フェイスブック（FB）のメッセージ（グループ）と併用しました。FBに付属するメッセージアプリに適宜進捗写真を投稿してもらい、各専門家が質問、確認の指示をその都度行いました（写真右）。Agrosaw社のエンジニア（インド在住）にも参加してもらったところ、ほぼリアルタイムで反応してくれるので、スムーズに据付作業が進んでいます。このスタイルで2月は据付作業を進めていきます。これもオンラインによる遠隔活動の教訓の一つになりそうです。



【お知らせ】このフォトレター（“Pure CS” Project Photo Letter）がJICAの本プロジェクトHPでもご覧頂けるようになりました！（URL：<https://www.jica.go.jp/project/myanmar/029/newsletter/index.html>）
FB公式サイトも是非ご訪問ください。URL（<https://www.facebook.com/jica.pure.cs.project/>）（編集委）

【種子選別機の据付作業手順（2月）】 コロナウイルス予防措置に伴う移動制限、自主隔離に加え、2/1に政変が発生し、国内情勢が全体的に不安定化している中で、機材納入業者のエンジニア、アシスタントとプロジェクトスタッフがひとつのチームとなり、黙々と現場の活動を継続しました。現地DOA普及所、農場の政府職員が多くがストライキ中。しかし出勤している職員はチームの作業に対して、とても協力的だったとのこと。

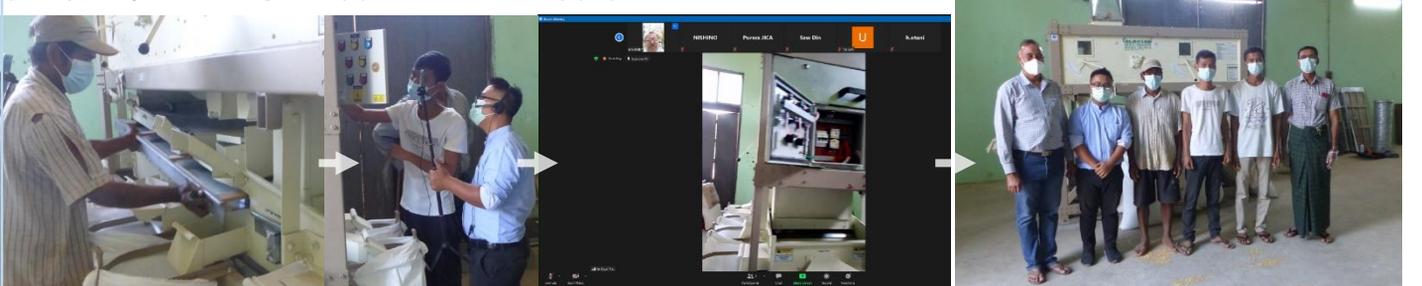
写真（左から）・トラックでの機材搬入、・位置決めとマーキング、・土台の基礎工事、・機材を固定して水平を測定



続き（左から）・アンカーボルトの埋め込み、・ダスト排出口の穴開け、・サイクロン土台の基礎工事、・組み立て



続き（左から）・スクリーン等パーツ取付、・オンラインによる最終確認



据付完了後は、スペアパーツやメンテナンス道具の説明。プロジェクトで2018年に作成した選別機操作マニュアルを現地オペレーターに渡して、一連の運転操作を説明しました。



始動方法、電圧のチェック、品種によって異なる下部スクリーンサイズの選定方法も説明し、実際の種籾を使っての試運転を行いました。オンラインという難しさはありましたが、選別種子の状態等を、専門家との間で細かくチェックしました。



パティン、ラプタでは、倉庫内のネット接続環境が悪いことから、SNS（FB メッセンジャー）のみとしました。

作業中は騒音もあり音声聞き取りにくいので、逆にテキストのほうが指示が明確に出せました。また、中継画像より写真のほうが作業の様子がクリア。関係者の時間調整（拘束時間の削減）も容易で、FBメッセンジャーによるモニタリング方法も有効だと感じました。

